

良好メール

地産地消で おいしい米麺誕生

米粉めん試食会



丹精込めて作った新メニューを披露した中華レストラン

大東町産の米粉を使った米麺の新メニュー試食会が4月12日、摺沢駅前の中華レストラン「バンバン」で行われました。試食会には岩手県や一関市、J A、関係団体など約30人が参加。地場産米を使った米麺の普及拡大に期待が膨らんでいます。

新メニューは「塩ラーメン風米麺」と「みそ辛風米麺」の2品で、コシが強くもちもちした食感が特長です。試食した参加者は「スープは野菜のうまみが出ておいしい。麺はのどごしが良く何杯でも食べられる」と絶賛していました。

米麺の製造は大原地区の地元農家と協力し県や市、J Aで転作物として収量の多い「ふくひびき」を作付けし、その米粉を使用し商品にしたいと渋民地区に製麺工場を持つアオキ株が製造。同社も以前より米麺製造を手掛けており、その米粉の特性を生かし商品化にこぎつけ、その麺を同レストランが提供を受けて開発しました。

同レストランの藤野静江さんは「丹精込めたスープと地元産米と旬な野菜でお子様からお年寄りにも食べやすく、地元の米麺で地域を元気付けたい」と今後も季節にあった新メニューに取り組み意気込みを話していました。

気づこう一人ひとり、 行動しよう仲間とともに

女性部第11回通常総会



「22年度もよろしくお祈りします」本部役員の方々

J A女性部長（佐藤幸子部長）は4月8日、両磐地域職業訓練センターで第11回通常総会を開きました。

新たな3か年計画「J A女性 気づこう一人ひとり、行動しよう仲間とともに」をテーマに、部員一人ひとりが自信と誇りをもってJ Aをよりどころとした組織活動で、明日も輝く女性部づくりを進めることを確認しました。

総会には各地区の支部役員ら41人が出席し、暮らしと環境を守る活動や、組織強化の推進などを盛り込んだ平成22年度活動計画など3議案を承認。昨年の規約改正で役員任期が2年となり、引き続き佐藤部長をはじめとする7人の役員が女性部をけん引します。

今年度も、女性部統一の大豆栽培と大豆を使った料理コンクールの実施や、「学びの場」「人づくりの場」を目指して開講した年間4回の『女性部講座』などに取り組み、女性の元気と活力を発揮して積極的に活動を進めました。

佐藤部長は「食と農を結び付ける活動を軸に、女性部の活性化につながる活動を地域や組織と連携を図りながら取り組んでいきたい」とあいさつしました。

花寿司でおもてなし

女性部東山中央支部



「こうやって片側ずつ押し込むように巻くのよ」と指導する佐藤シーダー

J A女性部東山中央支部(阿部安子部長)では4月15日、J A東山支店2階のカルチャールームで花寿司の講習会を開催しました。

講習会には22人の部員が参加。生活シーダーの佐藤京子さんの指導で星型と四本巻ききの2種に挑戦しました。

星型の太巻きは、2枚目の海苔を寿司飯の上に置き、箸で溝を4本つけます。彩りを考えて4種類の具を並べた後、巻き簾の両端を持って片側ずつ押し込むように巻きます。細まきや太巻きを作り慣れている部員ですが、仕上がりが気になり、巻き上がるとすぐに切って、断面を確認する姿が見られました。

内側の形のゆがみや寿司飯の量の調節など、断面を見ながら反省する声も聞かれましたが、和やかに楽しい講習会となりました。

良質な切り花生産に向けて

りんどう栽培管理指導会



株の仕立て(間引き)の指導を聞く部会員

J A花き部会りんどう専門部(佐藤久仁子部長)は4月21日、管内2カ所で栽培管理指導会を開き、株の仕立(間引き)や病害虫防除対策を学びました。

大東町大原の鈴木勝也さんの圃場で行われた指導会には10人が参加。一関農業改良普及センターの中野俊成主任農業普及員は「仕立て本数が多いと、茎が細くなつて軟弱になるため、品質の低下や病害虫の発生の原因となる。一株あたり5〜7本の茎数に仕立てることで品質が安定し、株の維持にもつながる」と指導しました。またJ A園芸課の藤代昇営農指導員が育苗状況と栽培管理記録簿の記入について説明しました。

ショウガづくりの基礎を学ぶ

女性部室根中央支部野菜づくり講習会



長いも種の定植方法も実演する石川さん(中央)

J A女性部室根中央支部(佐藤幸子部長)は4月6日、「安全・安心な食材で健康を守ろう」をテーマに野菜づくり講習会を開催しました。同女性部は今年度「ショウガ栽培」に取り組むこととし、2月に行ったショウガの種の共同購入では120キの注文がありました。

講習会にはJ A生活シーダーの石川シゲ子さんを講師に41人が参加。ショウガづくりのほかに、石川さんが得意とする「長いも種の定植方法」について実演を交えて教わり、参加者からは「いいことを教わったので早速やってみよう」と大好評でした。

今回の講習会は女性部活動のPRもかねており、6月、10月にも同様の勉強会を開催予定、部員以外にも幅広く呼び掛け加入促進につながればと期待を寄せています。

道の駅かわさき 開店7周年を迎えて

道の駅テント市



笑顔で自家栽培の食材で作ったサラダを販売

「道の駅かわさき」の開店7周年を記念して、4月9日から11日までの3日間、感謝セールが行われ、椎茸のつめ放題やもちまき等のイベントが日替わりで催されました。

川崎の生活改善研究グループ（千葉秀子代表）の皆さんも大テント市で、安全・安心の手づくりはっとう豚汁や農産物を販売しました。メンバーの今野さんは、「アロオカナのゆで卵とプチベール・アイスプラント・サンチュのサラダはいかがですか」と全て自家栽培の食材で作ったサラダを手にとり、来場者に声を掛けていました。こんにゃくのおでんをほおばっている家族もいて、春のほほえましい風景でした。

水稻栽培初期管理を学ぶ

室根稲作部会座談会



屋中地区会館には部会員17人が参加しました

J A室根稲作部会（小山正部会長）は4月20日、22日の2日間、室根町内16会場で部会員168人が参加し育苗管理と田植え前後の管理について学びました。

折壁の屋中地区会館には部会員17人が参加。J Aの担当職員が「今年は特に寒いので、育苗は被覆等により夜間の保温対策等しっかり行うこと」と育苗管理を指導。また「補植作業はほどほどにし、除草剤は葉令が小さいうちに早めに散布すること」と田植え後の管理について指導しました。

部会員は管理のポイントを学び、良質な米の生産と安定した収穫を決議しました。また栽培管理記録簿や出荷申出書の期限内の提出を確認しました。

基本を徹底し収量向上を目指す

キュウリ初期管理指導会



初期管理のポイントを説明する小田社長

J Aきゅうり部会（千葉健司部会長）は4月9日、南部園芸センターと大東農業技術センターで部会員約25人が参加。初期管理指導会を開き定植準備と管理を学びました。

「初期生育は大事なのでしっかり管理しましょう」と千葉部会長があいさつし、講師の（株）ときわ研究所の小田耕司社長は、「初期の根の張らせ方が重要で、いかにスムーズに活着させるかが大事」と品種特性の把握と栽培管理について指導しました。またJ Aの佐々木澄弥担当職員より農薬使用基準の確認と栽培管理記録帳について説明がありました。部会員は安全・安心なキュウリ栽培と収穫量アップを決議しました。

千厩酒のくらで 交流を深める 蔵まつり



餅つき歌でイベントを盛り上げました

千厩まちづくり(株)と岩手銘醸(株)は4月16日、17日の2日間、千厩酒のくら交流施設で蔵まつりが開催されました。

初日のイベントでは新酒まつりが行われました。新酒が仕上がるこの時期に催され今年で5年目。約220人の愛飲家が来場し、蔵出し原酒や藤沢町産の香り米の「はぎのかおり」など香り豊かな新酒6種を味わいながら交流を深めました。

また、2日目のイベント中では餅つき大会が行われ、来場者は「つきたての餅は、あんばい良くてうまい」と堪能していました。

J Aは両日、「いわて南牛」の地元消費者への理解を深めようと、J Aいわい東とJ Aいわて南の若手畜産農家でつくる「いわて南牛Pro5」のメンバー6人が牛串焼きなどPRを行いました。

効率化・省力化散布で 丈夫な稲づくり

ケイカルバラ散布



おくたま農産の圃場でバラ肥料の散布

千厩町の「おくたま農産」は4月5日、6日の2日間、水稲圃場に土壌改良剤のバラ散布が行われ、水稲圃場の作業が本格的にスタートしました。

バラ散布では病害虫や倒伏に強い稲を作る水稲栽培には欠かせないケイ酸資材のケイカルを使用。100鈔ほどの圃場へ10⁷あたりの散布量は100^キでケイカル約100^トを散布。大型トラクターにより短時間に、大区画圃場で効率良く散布作業が進められました。

千厩管内ではこのほか、3月下旬から4月上旬にかけて「とぎの森ファーム」や「南小梨営農組合」などでもバラ散布が行われ良質米の生産に向け稲作作業が進んでいます。

椅子に座って ラクラク健康！

女性部千厩中央支部第11回通常総会



体操でリフレッシュする部員たち

J A女性部千厩中央支部(小野寺美智子支部長)は3月19日に両磐地域職業訓練センターで、第11回通常総会を開催しました。部員約90人が出席し、21年度決算報告や22年度活動計画など3議案が決議され、農村女性の社会的、経済的地位の向上を図り、部員相互の親睦を図りながら明るく豊かな地域社会を築いて行くことを確認しました。

総会終了後に行われた記念講演では、健康運動指導士の藤野恵美さんを向かい「椅子に座ってラクラク健康」と題し、椅子に座りながらタオルを使った健康体操をして農作業や家事の疲れを癒せるように楽しく体を動かしました。体験した部員は「こんなに簡単に楽しく出来るなら、毎日やって健康を目指します」と意気込む部員もいました。